

会議録（概要）

会議名等	令和5年度 第2回四街道市特別支援連携協議会		
年月日	令和5年2月28日（火）	時間	14:00～16:30
場所	四街道市役所第二庁舎第2会議室		
出席者	委員 松浦委員 大手委員 笠松委員 星委員 田島委員 舟竹委員 安部委員（座長） 青木委員 山本委員 白田委員代理 高塚委員代理 木内委員 米澤委員 事務局 大川指導主事 金田指導主事		
欠席者	藤原委員 岡田委員 岡本委員		
傍聴人	0人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 座長・副座長選出 会議録の作成について 傍聴について</p> <p>4 議題 （1）報告 ①令和4年度特別支援体制推進事業の成果と課題について ②令和4年度青い麦の子振興ふれあい運動会について （2）協議 ①令和5年度の取組について</p> <p>5 閉会</p> <p>—— 会議要旨 ——</p> <p>会議次第に従い進行 金田指導主事</p> <p>4 議題 （1）報告①令和4年度特別支援体制推進事業の成果と課題について</p> <p>事務局：事務局より説明</p> <p>座長：質問、意見はあるか。</p> <p>青木委員：学生支援ボランティアについて、昨年度までの実績と今後どのような周知の方法</p>			

を考えているかを教えてほしい。

事務局：昨年度、一昨年度は取組自体を中止していた。今年度は大学3校短期大学2校に電話連絡し、チラシの配付を行ったが希望者はいなかった。今回の結果から周知の方法を教えていただきたい。

青木委員：教員不足が全国的な課題になっている。これからは、大学生のうちから活動を通してやりがいを知ってもらうことが必要である。県教委は、各校で高校生向けに説明会を行っている。そのような活動を行うのもよいのではないかと考える。

松浦委員：学生には2年生のうちから現場に出ることを奨励している。他市では交通費の支給や、来年度からたまごプロジェクトにおいて教採への加点がある。そのため、他市の制度と比較したときに他市の制度の方を選択すると考える。四街道市のボランティアを行うことでのメリットを作るとよいと考える。

座長：学生ボランティアについて、将来性のある良い取組であるため前向きに進めていただきたいと考える。  
関係各課特別支援担当者会議の内容について聞きたい。医療的ケア児に限って情報交換を行っているのか。成果と課題、開催時期について聞きたい。

事務局：各課の情報の共有や、保幼小の連携についてどのように行っていったらよいのか等について話し合った。会議終了後、就学に向けてスムーズな連携が取れている。時期的なことについては、来年度は9月以前に行っていきたいと考えている。

座長：巡回相談について、件数が増えていることから、次年度以降の対策があれば教えていただきたい。

事務局：今年度より1名増員した。来年度も引き続き行っていただくことになっている。

座長：続いて、「個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式」、「にじいろサポート」、「就学説明会」について報告をお願いしたい。

事務局：事務局より説明

座長：質問、意見はあるか。

松浦委員：個別の指導計画とあゆみの内容は同じか。なぜ通知表に自立活動がないのか。中学校になぜ自立活動を位置づけていないのか。フォーマットを検討したほうが良いと考える。

谷口委員：小学校、中学校の様式を見ると教科領域に生活単元と作業学習という表記があるが、実際のところ、指導形態という表現になるため、通知表に生活単元や日常生活の指導の文言が載るというところに議論が必要かと考える。令和5年度版の特別支援教育指導資料が4月に出るため、個別の指導計画、個別の教育支援計画について教育事務所で議論を行った。知的障害特別支援学級であれば生活単元学習や作業学習を行うことができるが、自閉症・情緒障害特別支援学級の場合には、児童生徒の実態に応じて生活単元学習や作業学習を行うことができるとされているため、各学校の実情に応じた様式が求められると考える。

松浦委員：最初からフォーマットを何種類か用意しておくといいのではないかと考える。

座長：他に質問、意見はあるか。

事務局：田島委員に聞きたい。にじいろサポートを配付しているが、保護者がにじいろサポートを提示する場面はあるか。保護者がにじいろサポートを受けた後どのように活用しているのかを知りたい。

田島委員：くれよんでは、保護者からの提示はない。こちらから配付を行う方が多い。

座長：就学相談説明会について、就学相談の中から、就学につながるケースはあったのか聞きたい。

事務局：就学説明会には31名の方が出席をした。全員がその後の面談を希望し、特別支援学級や特別支援学校の入級に向けて見学、体験等を行った。

座長：各課よりにじいろサポートファイルの活用状況や意見等を聞きたい。

大手委員：にじいろサポートファイルについては、きちんと記入され、活用されればよいものとする。

笠松委員：主に虐待等を扱っているが、にじいろサポートファイルの提示をする家庭はない。課としては現在、グレーゾーンの方の支援が非常に難しいということが課題とな

っている。

星 委 員：保育所では、提示をしているところを見たことがない。

舟竹委員：保護者の方から就学支援シートの配付の希望があった。幼稚園での支援の様子を記入しているため、小学校で参考にしてほしい。

座 長：小学校でも参考になっている。

松浦委員：ライフサポートファイルについて、ICTを活用して、システムで管理している自治体もある。保護者が一番使いやすい方法を検討していくことが必要と考える。

(1) 報告②令和4年度青い麦の子振興ふれあい運動会について

事 務 局：事務局より説明

座 長：中学校区ごとにオンラインで行った。画面を通じて交流を楽しむことができた。今後、実施方法を工夫して対面で行うことも考えているところである。

事 務 局：保護者の方も楽しみにしている。そのため、子どもたちだけでなく保護者の方も対面で行うメリットがあると考えている。

(2) 協議①令和5年度の取組について

事 務 局：事務局より説明

座 長：各課の取組や課題等を含めて一人ずつ意見を聞きたい。

米澤委員：高校でも、特別な支援が必要である生徒、保護者からの申請がある生徒、グレーゾーンと考えられる生徒が在籍する。支援を行うためには人材が必要になっていくと考える。

山本委員：中学校を卒業して就学という現状は少ない。学生に対する支援、グレーゾーンと言われる方の支援、ハローワークの中では雇用トータルサポーターという名前で精神保健福祉士や臨床心理士、公認心理士という専門的な資格を持ったものを非常勤職員として配置し、専門学校や大学、キャリアセンターと連携しながら、学生徒に関するところまでは事業が進んでいる。だからといって、グレーゾーンの方を障害者とする必要はなく、大学生であれば3年生の早いうちから支援をして

いる。雇用トータルサポーターの配置も千葉県内では2人しか配置されていない。国の施策として取り入れられたが全国的にはまだまだ少ない状況である。今後、障害者の法定雇用率が上がるということで、働ける障害者を企業は求めている。グレーゾーンの方を障害者にする必要はないということを常に考えている。そのような方へは少しのサポートを行っている。手帳を申請できる方であれば、就労につなげていくこともよいと考えている。成長過程の段階でいろいろな課題がわかっているということで今後何をサポートしていく必要があるのか、そのサポートはどこが行うのかということがわかっているとよいと考える。ステップアップしていくといった働き方も大いにあると考える。

佐藤委員：にじいろサポートファイルは今後、訪問の際に聞いていこうと思う。年金を申請する際に、遡ることが大変なため、記入したり、資料が閉じこんであったりするととても良いと考える。すけっとの相談は不登校、家族関係が悪いこと等、本人だけでなく家族支援も必要であると考えている。

木内委員：にじいろファイルについて、幼いときから書き続けることを保護者としては切ないことがあると考える。保護者としては小さな圧力を感じることもある。書くことがつらいと感じる保護者がいる。今後、先が広がるような言葉で渡せればよいと考える。

田島委員：くれよんの事業でイベントができていない。保護者同士のつながりが薄れてしまう。お子さんの成長を感じる事が少なくなってしまう。そのため、できる限りのイベントを行っていけるとよいと考える。  
研修について、規模さえ可能であれば、多くの募集をかけていただけたらありがたい。

谷口委員：山本委員の話は、中学校での自立活動の指導につながる。さらに保護者への情報提供を行う上でも重要である。これまでは特別支援学級のお子さんが特別支援学校に進学する割合が6割以上あったが、令和3年度卒業生以降、特別支援学校よりも高校進学割合が増えるという状況となった。しかしながら、高校に進学をした後に、環境調整がうまくいかなかったり、高校を出た後に就労に難しさを抱えたまま進んでいたりしているという状況もある。そういった情報を早い段階から保護者に伝えることで高等学校に進学した時の環境調整や指導に向けた取組のスタートが早く切れると考える。そのため研修といった形で教職員に話をしたいと強く感じた。

事務局：米澤委員に、中高の情報交換の方法をお聞きしたい。

米澤委員：電話でのやり取りや、会議に出席することもあるが、新型コロナウイルス感染症対策によって対面は減っている。

舟竹委員：私立の高校では中高との引継ぎを細かく行っている。  
小中学校で外国籍の児童は増えていないか。幼稚園では増加をしている。

事務局：小中学校でも増えている。支援が必要な児童もあり、児童の課題を保護者へ伝える際になかなか伝えることができず難しいところがあり、課題となっている。

座長：他に意見、質問はあるか。  
なければ本日予定していた議題はすべて終了した。座長の任を解かせていただく。  
事務局にお返しする。

## 5 閉会

事務局：それでは、これで第2回特別支援連携協議会を閉会する。

会議録署名人